

2021 年度民間航空機部門納入数の目標を達成



2021 年度の納入目標を達成したエアバス

エアバスは 2021 年度に民間航空機を 88 社へ 611 機納入したことを発表しました。これにより、高い回復力と増産計画が順調に進捗していることを実証しました。

エアバスのギヨム・フォーリ CEO は次のように述べています。「2021 年度の目標達成は、エアバスのチーム、顧客、サプライヤ、ステークホルダーが協力して取り組んできた成果で、その強い回復力を証明することができました。また、世界中の航空会社から多くの受注があったことは、新型コロナウイルス感染症の収束後の、航空輸送の持続可能な成長の高い可能性を示しています。不確実な要素は残っていますが、私達は需要に対応できるように、2022 年の生産数引き上げに向けて順調に計画を進めています。エアバスは航空業界の未来を見据え、製造能力の変革に取り組み、脱炭素化のためのロードマップを実行していくつもりです」

2021 年度の納入の約 25% は、「e-デリバリー」方式で実施されました。この方式によって、顧客は機体の受領に関わるチームの移動を最小限に抑えながら機体の引き渡しを受けることができます。

2021 年度の受注数は総受注数が 771 機（純受注数は 507 機）で、2020 年度と比較して倍増しました。幅広い市場から需要があり、さまざまな市場を網羅するエアバス製品の強みと市場の回復見込みの高さが証明されました。

A220 は 64 機の新規受注と、大手航空会社からの高いコミットメントを獲得しました。A320 ファミリーは 661 機の新規受注を獲得。ワイドボディ機部門では、合計 46 機を受注しました。その内訳は A330 が 30 機、A350 が 16 機です。A350 の受注のうち 11 機は貨物型の A350F で、さらに 11 機の

コミットメントも獲得しています。

機数ベースにおける納入受注比率は 1 以上を記録しました。

2021 年末時点の受注残は合計 7,082 機です。

2021 年度の納入内訳

	2021	2020
A220 ファミリー	50	38
A320 ファミリー	483	446
A330 ファミリー	18	19
A350 ファミリー	55	59
A380	5	4
合計	611	566

contents

2021 年度民間航空機部門納入数の目標を達成

Peach の A321LR 初号機を引き渡し

ベルーガ ST による大型貨物空輸サービスの提供開始

エアバス、NTT、ドコモ、スカパー JSAT の 4 社が HAPS の早期実用化に向けた研究開発などの推進を検討する覚書を締結

パスコがプレアデス・ネオ衛星画像の販売代理店に

Peach の A321LR 初号機を引き渡し

2021年12月に、エアバスはPeachのA321LR初号機を独ハンブルクで引き渡しました。

同年12月28日に、Peachは日本の航空会社で初めて、長距離型A321LRの商業運航を開始しました。当初は、2022年1月に就航を計画していましたが、運航機材の調整のため、前倒しの就航となりました。

PeachのA321LRはモノクラス仕様で218席を装備します。日本から最大4,000海里(7,400キロ)の距離を飛行することができるため、新路線を開拓することが可能です。

A321LRはA320neoファミリーの派生機です。旧世代機と比較し、燃費を20%、騒音影響範囲を約50%削減しています。大西洋横断が可能な航続距

離に、ワイドボディ機のような快適な客室を備え、新たな長距離路線を開設するのに最適です。同クラ

スの中で運用コストは最も低く、その他のエアバス機ファミリーと高い共通性も保持します。



日本の航空会社で最初のA321LRオペレーターとなったPeach

ベルーガ ST による大型貨物空輸サービスの提供開始

エアバスは、ベルーガST「スーパー・トランスポーター」による大型貨物の空輸サービスを、物流、運輸会社やその他顧客に提供する新事業を立ち上げました。

エアバスの新サービス「ベルーガ・トランスポート・サービス」は、宇宙、エネルギー、防衛、航空、海運、人道支援などの分野の一般顧客に対し、大型貨物の空輸を行います。

このベルーガ・トランスポート・サービスが手がけた最初の空輸が2021年末に実施されました。ベルーガSTの3号機によって、ヘリコプターが、エアバス・ヘリコプターズの製造工場がある仏マリニャンヌから、ワルシャワ（ポーランド）、ノヴォシビルスク（ロシア）、ソウル（韓国）を経由して神戸に輸送されました。

エアバスのATIエア・オーバーサイズ・トランスポート部門責任者のフィリップ・サボは次のように述べています。「ベルーガの広い胴体幅が新たなマーケットを誕生させるとともに、物流にも新たな可能性を提供します。ヘリコプター輸送の場合、機体を解体することなく空輸できるのが大きな利点です。また、旅客機のエンジンも完成した状態で積載することが可能です」

ベルーガSTはA300-600を改造した特別貨物輸送機です。現在5機が、欧州各地にある工場間でエアバス機の大型コンポーネントを輸送する役目を担っていますが、今後順次、6機の新世代型ベルーガXLと置き換えられる予定です。

世界最大の胴体幅を持つベルーガSTは、最大で幅7.1m、高さ6.7mの大型貨物を積載できる



神戸に飛来したベルーガST



仏マリニャンヌで貨物の積載をするベルーガST

ため、市場のあらゆる輸送ニーズに対応できます。

新型ベルーガXLの6機すべてが就航したのには、5機のベルーガSTは新たに設立される航空会社に、航空運送事業認可および従業員とともに引き継がれる予定です。「新しい航空会社は世界中の市場ニーズに柔軟に、迅速に対応していきます」とサボは述べています。

ベルーガSTは、顧客となる国際的企業が要求する短時間でのターンアラウンド（空港に着陸してから貨物の積み降ろしや燃料補給などを行って再び出発するまでの過程またはその時間）を実現するため、新たな搭載技術や機材が開発されました。そのひとつが自動貨物積載システム（On-Board Caro Loader: OBCL）で、貨物の搭降載設備が整っていない空港で活用することができます。

エアバス、NTT、ドコモ、スカパー JSAT の 4 社が HAPS の早期実用化に向けた研究開発などの推進を検討する覚書を締結 衛星と HAPS を組み合わせた大規模ネットワーク構想の実現をめざす

エアバス、日本電信電話株式会社 (NTT)、株式会社 NTT ドコモ (ドコモ)、スカパー JSAT 株式会社 (スカパー JSAT) の 4 社は、2022 年 1 月 14 日 (金) に、成層圏 (上空約 20km) を飛行する高高度プラットフォーム (HAPS) の早期実用化に向けた研究開発、実証実験の実施に関する協力体制構築の検討を推進するための覚書を締結いたしました。

この覚書の締結は、HAPS の早期実用化に向けた研究開発の推進を目的としています。エアバスの HAPS 「Zephyr (ゼファー)」と NTT、ドコモ、スカパー JSAT の通信ネットワークのコラボレーションにより、HAPS の接続性および HAPS を利用した通信システムにおける有用性の発見、および技術やユースケースの開発に向け、4 社間の連携を推進してまいります。

4 社は 5G のさらなる高度化、および 6G に向けた取り組みとして、空・海・宇宙などを含むあらゆる

場所への「カバレッジ拡張」の検討を進めています。中でも HAPS によるネットワーク構築は空・海へのカバレッジ提供を容易に実現できることから、災害対策やイベント会場などが密集する場所での通信容量の確保、建設現場での重機の遠隔操作などに有効であると考えられています。また、この「カバレッジ拡張」の実現に向け、HAPS に加え、静止軌道衛星 (GEO) および低軌道衛星 (LEO) を用いた非地上ネットワーク (NTN) 技術が期待されています。

4 社は、GEO、LEO、HAPS などの NTN 技術を用いたアクセスサービスを「宇宙 RAN (Radio Access Network)」と称し、検討を進めています。宇宙 RAN を提供して超広域カバレッジを実現することで、災害対策だけでなく、離島やへき地のエリア化、飛行機や船などの通信環境の飛躍的な改善など、利便性の向上や新たな付加価値の提供が可能となります。今回の覚書締結により、この宇宙

RAN 事業の促進もめざして 4 社間の連携を推進してまいります。

今後 4 社は、HAPS による成層圏からの通信に焦点を当てた技術に関する研究開発に加えて、HAPS の機体開発や HAPS の運用に向けた標準化・制度化への働きかけ、および HAPS によるネットワークサービスの商用化に向けたビジネスモデルに関する検討も行います。主な研究開発の対象として、地上の移動機との接続や基地局バックホールなどに HAPS を適用する可能性に関する検討や、HAPS を利用した通信システムにおけるさまざまな周波数帯の通信性能の評価、および HAPS と衛星および地上基地局との連携に向けた技術的な検討を行い、宇宙 RAN 事業を促進してまいります。また、今後は衛星・HAPS などの NTN 技術によるネットワーク構築の実証実験を視野に入れた協力体制も構築していく予定です。



エアバスとドコモは昨年、ゼファーを用いた成層圏と地上間の電波伝搬の実証試験に成功

パスコがプレアデス・ネオ衛星画像の販売代理店に

エアバスは、日本の地理空間情報ソリューションのプロバイダーである株式会社パスコと、プレアデス・ネオ直接受信における、日本市場での関連データの販売権に関する新しいパートナーシップ契約を締結しました。

今回の契約は、20年前にパスコがエアバスの地理空間情報処理システムを導入してから続く、2社の長きにわたる協業関係において、新たなマイルストーンとなるでしょう。2005年、パスコは日本市場における TerraSAR-X 衛星データの独占販売代理

店となり、2011年には衛星の打上げ前の時点からプレアデス衛星データの最初の販売代理店、2014年には SPOT6 / 7 衛星データの独占販売代理店となりました。

今日、エアバスとパスコは互いに協力し、プレアデス・ネオによる 30cm 分解能の画像データの活用と提供を通して地理空間情報サービスの普及を拡大し、平常時・災害時双方における災害対策・準備の取り組みをはじめとする様々な分野において、迅速なタスキング、撮影頻度、撮影範囲の面

であらゆる困難な要求にも応えることで、広く危機管理に貢献いたします。

4基の同型衛星で構成されるプレアデス・ネオは100%エアバスが製造、所有、運用しており、このクラスの衛星としては最も大きい14kmの撮影幅で30cmの分解能を実現します。プレアデス・ネオは比類なきアジリティにより、地球全体を年に5回撮影することが可能です。最初の2基の衛星はすでに打ち上げられ軌道にあり、残る2基は2022年半ばに打ち上げられる予定です。



プレアデス・ネオの衛星画像：国立競技場

2021年12月末時点の受注・引き渡し・運航機数

機種	総受注機数	総引き渡し機数	運航機数
A220 / A318 / A319 / A320 / A321	16,683機	10,369機	9,765機
A300 / A310	816機	816機	284機
A330 / A340	2,216機	1,904機	1,660機
A350	917機	461機	461機
A380	251機	251機	244機
合計	20,883機	13,801機	12,414機